2020年1月23日
日興アセットマネジメント株式会社

（愛称）イノベーティブ・フューチャー

運用状況とARKがお伝えしたいこと

当ファンドは、主にルクセンブルグ籍円建外国投資法人に投資を行なうファンドとして、2019年6月28日に設定されました。

設定以降、8月から10月上旬にかけ、当ファンドの実質的な保有銘柄の一部の決算内容が嫌気されたことや、米国において薬価引き下げ問題が取り沙汰されたことなどから、当ファンドは値下がりしました。その後、米国でゲノム関連のヘルスケア株式が買い戻される動きが強まったことなどから、設定来のパフォーマンスは7.27%（2019年12月30日現在）となりました。

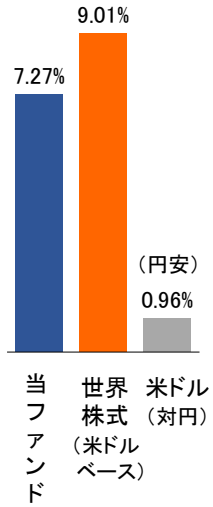
本資料では、設定後のパフォーマンスとその変動要因、そして、当ファンドの主要投資対象である外国投資法人の運用に助言を行なう、アーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー（ARK）が、運用においてお伝えしたいことをご紹介します。

基準価額、世界株式および為替の推移　日次

2019年12月30日現在

基準価額	純資産総額
10,727円	2,785億円

＜各資産の騰落率＞



（2019年6月28日（設定日）～2019年12月30日）

●基準価額は信託報酬等（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の1万口当たりの値です。
●世界株式は、MSCI ACワールド指数（米ドルベース、トータル・リターン）の値です。
●上記指数は当ファンドのベンチマークではありません。
●信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成
●上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

nikko am 日興アセットマネジメント
当資料は、投資者の皆様に「グローバル・プロスペクティブ・ファンド＜愛称：イノベーティブ・フューチャー＞」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

設定来の運用概況の振り返り

- 設定後の2019年8月から10月上旬に基準価額は大きく値下がりし、その後大きく反発しました。
- 米中貿易摩擦や英国のEU(欧州連合)離脱問題などの影響に加え、投資先企業の一部における短期的な業績への懸念、米国における薬価引き下げ問題などが、パフォーマンスの重しとなりました。

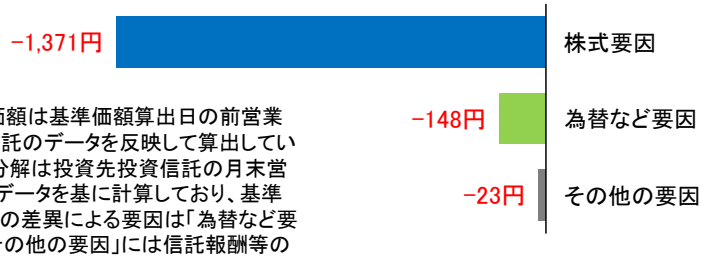
		①	②
対象期間		2019年6月28日から 2019年10月9日まで	2019年10月9日から 2019年12月30日まで
騰落率	基準価額	▲15.42%	26.83%
	世界株式	▲1.67%	10.85%

●基準価額は信託報酬等(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。
●世界株式は、MSCI ACワールド指数(米ドルベース、トータル・リターン)の値です。
●上記指数は当ファンドのベンチマークではありません。
●信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成
●上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

基準価額の推移①

2019年6月28日（設定日）～2019年10月9日

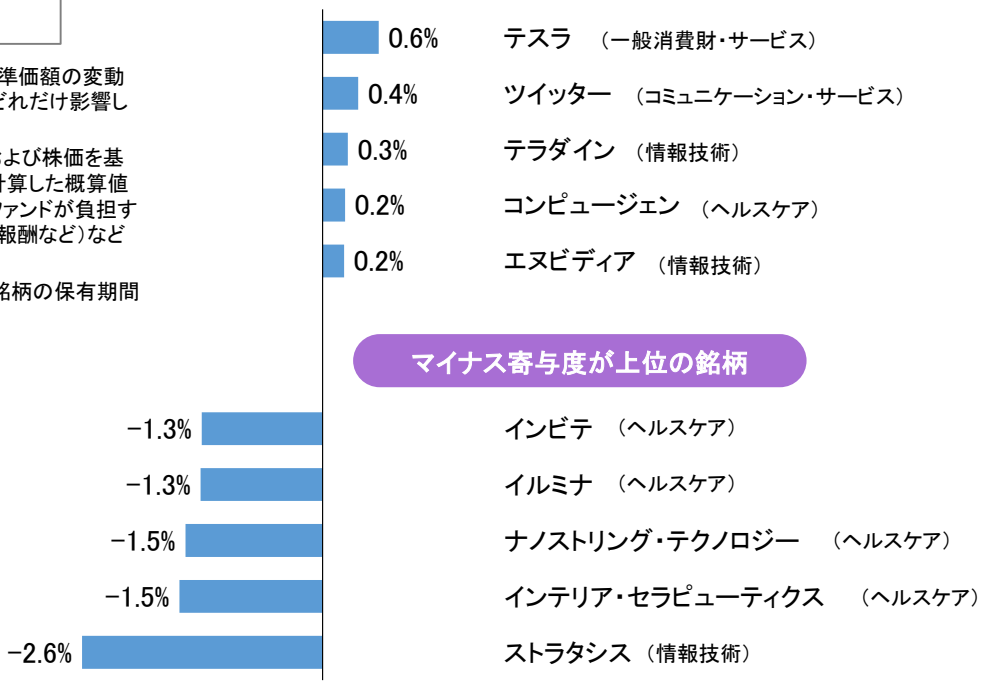
基準価額騰落（▲1,542円）の要因分解



※当ファンドの基準価額は基準価額算出日の前営業日の投資先投資信託のデータを反映して算出しています。一方で要因分解は投資先投資信託の月末営業日の公表されたデータを基に計算しており、基準日が異なります。この差異による要因は「為替など要因」に入ります。「その他の要因」には信託報酬等の費用や計算誤差などが含まれます。

銘柄別寄与度

※寄与度は、上記期間中の基準価額の変動において、各銘柄の変動がどれだけ影響しているかを示したものです。
※各銘柄の日次の保有比率および株価を基に為替変動などを考慮して計算した概算値であり、実際の取引価格やファンドが負担するコスト（売買手数料や信託報酬など）などは考慮されていません。
※なお、当ファンドにおける各銘柄の保有期間は異なります。



大きく下落した要因

◆ 米中貿易摩擦の激化懸念が強まったことに加え、米国で景気後退の兆候とされる国債の長短金利（10年債と2年債）が逆転（通常は、長期金利＞短期金利）したことから、同国の景気後退懸念が表面化し、株式市場は下落に転じました。

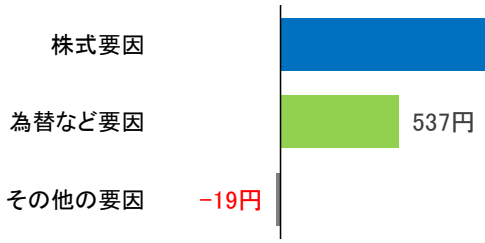
◆ 米国で薬価引き下げ問題が取り沙汰され、これによる業績悪化懸念からヘルスケア株式は軟調な推移が続きました。

●上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。
また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
●基準価額は信託報酬等（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の1万口当たりの値です。
●要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。
●寄与度は、実際の基準価額の騰落に対する寄与度を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。
●上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

基準価額の推移②

2019年10月9日～2019年12月30日

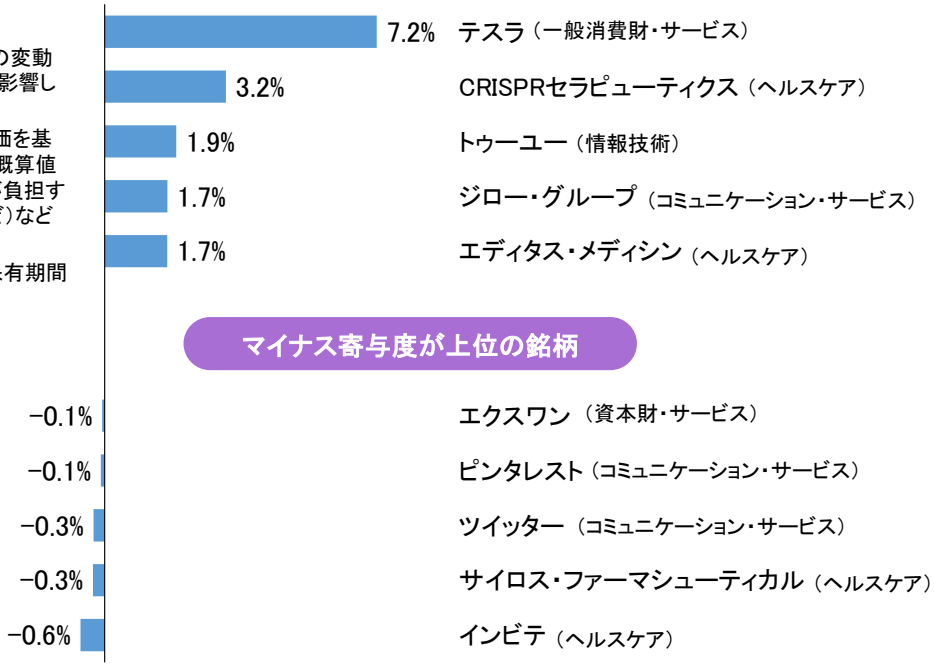
基準価額騰落(＋2,269円)の要因分解



※当ファンドの基準価額は基準価額算出日の前営業日の投資先投資信託のデータを反映して算出しています。一方で要因分解は投資先投資信託の月末営業日の公表されたデータを基に計算しており、基準日が異なります。この差異による要因は「為替など要因」に入ります。「その他の要因」には信託報酬等の費用や計算誤差などが含まれます。

銘柄別寄与度

※寄与度は、上記期間中の基準価額の変動において、各銘柄の変動がどれだけ影響しているかを示したものです。
※各銘柄の日次の保有比率および株価を基に為替変動などを考慮して計算した概算値であり、実際の取引価格やファンドが負担するコスト(売買手数料や信託報酬など)などは考慮されていません。
※なお、当ファンドにおける各銘柄の保有期間は異なります。



大きく上昇した要因

◆ 米中貿易協議の進展など、外部要因の改善に伴ない投資家のリスク許容度が改善し、米国株式が上昇する中、中小型のバイオ関連株式にも投資家の資金が戻ったことなどから上昇しました。

◆ EV(電気自動車)メーカーが発表した決算が、市場予想を上回ったことなどが好感され、株価が上昇したことも影響しました。

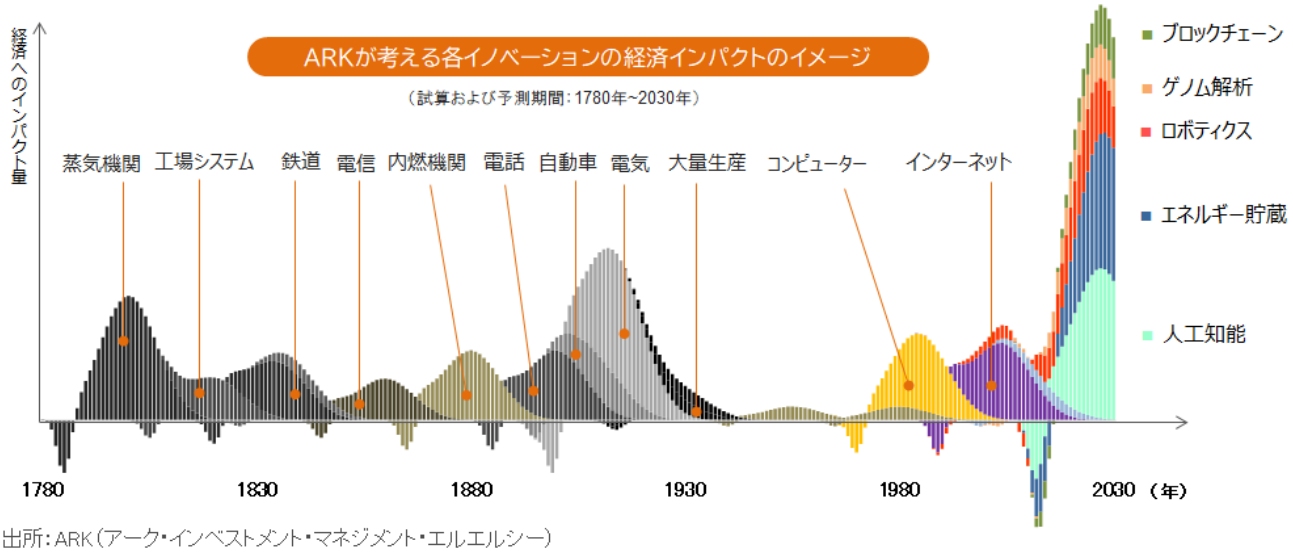
●上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。
また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
●基準価額は信託報酬等(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。
●要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。
●寄与度は、実際の基準価額の騰落に対する寄与度を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。
●上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

nikko am 日興アセットマネジメント
当資料は、投資者の皆様に「グローバル・プロスペクティブ・ファンド＜愛称：イノベーティブ・フューチャー＞」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

改めて当ファンドの商品性をご説明します

イノベーションにフォーカス(注目)することで中長期でのリターンを目指します

イノベーティブ・フューチャーは今後の**世界経済の成長の原動力**となる**複数のイノベーション**において、**主役となる企業に投資**を行なうことで**中長期でのリターンを目指す**ファンドです。



出所:ARK(アーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー)
※上図はARKが経済歴史学者の見解なども参考にして独自に算出した、過去と将来におけるイノベーションの相対的な経済インパクトを示したものです。
算出にあたってはすべてのイノベーションは投資とその現実化において類似のサイクルおよび期間を要するという前提に基づいています。
過去の試算および将来の予測については限定的なものであり、その信頼性を保証するものではありません。

個別銘柄を厳選して投資を行なうため値動きは市場平均より大きくなる傾向があります

イノベーティブ・フューチャーは、イノベーションをリードする企業を厳選し、企業規模が小さい段階でも投資を行なうことから、ポートフォリオの組入銘柄数は少なく、中小型株の比率も高めとなっています。従って、当ファンドの基準価額の値動き(振れ幅の度合い)は、市場平均よりも相対的に大きくなる傾向があります。

結論として

短期的な値動きに一喜一憂せず、値下がりしているときには、むしろ買い増すことなどを検討しながら、中長期的な期間じっくり保有いただくことが投資の成功への鍵となると考えられます。

●市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

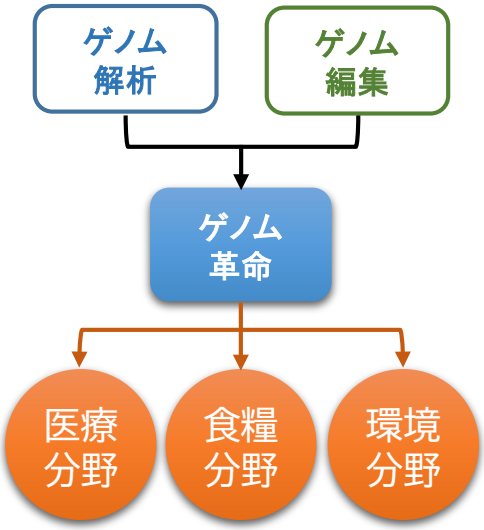
今、ARKがお伝えしたいこと-①ゲノム

当ファンドの主要投資対象である外国投資法人の運用に助言を行なう、ARKの視点をお伝えします

Catherine D. Wood
（創業者、CEO / CIO（最高投資責任者））

業種別の組入比率が高い「ゲノム関連銘柄」についてお話しします。

業種別組入比率の1位はヘルスケア（34.9%、2019年12月末、詳細はP13参照）であり、その多くをゲノム関連企業が占めています。



「ヒトゲノム計画」が完了し、全遺伝情報が判明した2003年以降、生命の設計図とも言える遺伝情報の解析（ゲノム解析）が進みました。

そして、「CRISPR/Cas9（クリスパー/キャスナイン）」と呼ばれる画期的なゲノム編集技術の登場により、破壊的イノベーションといえる「ゲノム革命（解析+編集）」が起きているとARKは考えています。

これまで、SFや夢物語に過ぎなかったものが、現実のビジネスとなり始めています。その市場は医療分野、食糧（生産）分野など幅広く、既存のビジネスを置き換えてゆく可能性があります。

【医療分野】

ガンや希少疾患において、遺伝子の異常を調べることで、これまでの対症療法ではなく、原因を解消する根本療法の実現が現実味を帯びています。一例として、がん免疫療法の一種である「CAR-T（キメラ抗原受容体T細胞）療法」が全米で医療保険給付の対象となりました。この先も、遺伝子編集で商品化された医薬品の保険適用が続くと期待されます。

【食糧分野】

地球規模の飢餓撲滅に向け、ゲノム編集技術を用いて、病気に強い作物、特定の栄養価の高い作物、収穫量の多い作物などの研究開発が進んでいます。ゲノム編集は自らの遺伝子を用いて編集することが可能となることから、他の生物の遺伝子を用いた「遺伝子組換」とは異なり、米国農務省は従来の交配と同様であると認識しています。

【環境分野】

生態系の把握や絶滅危惧種の保護、化石燃料の代替など、エネルギー問題の解決への貢献が期待されます。

- 当ページは、ARK社からのコメントや各種公開情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

製薬業界にみる「ゲノム革命」

画期的なゲノム編集技術とされる「CRISPR/Cas9」を中核に、大きく3つのプレーヤー（Player）が競い合う状況となっています。以下に一例を示します。

Player1
解析装置製造企業

ゲノム解析を行なう機器を製造する企業

- イルミナ（米国）
- サーモフィッシャーサイエンティフィック（米国）

などの企業

Player2
特許・ライセンス保有企業

CRISPR/Cas9に関する「特許・ライセンス保有企業」

- インテリア・セラピューティクス（米国）
- CRISPRセラピューティクス（スイス）
- エディタス・メディシン（米国）

などの企業

Player3
ゲノム編集製品開発企業

ゲノム検査・治療、ゲノム創薬、ゲノム編集作物などを手がける

- ノバルティス（スイス）/ガンCAR-T療法など
- セルジーン（米国）/ガンCAR-T療法など
- リジェネロン・ファーマシューティカルズ（米国）/肝臓関連疾患など
- バーテックス・ファーマシューティカルズ（米国）/鎌状赤血球症など

などの企業

※図はイメージです。
出所：ARK

上記のプレーヤーは競争ばかりでなく、ゲノム創薬などの分野で提携するケースがあります。例えば、製薬企業が商品開発に際して、「CRISPR/Cas9」のライセンスを保有する企業から技術提供を受ける場合などがあります。

こうした場合、ライセンス保有企業は、製薬企業からマイルストーンと呼ばれる、商品開発の進捗に応じた報酬に加え、商品の売上高の一定割合のライセンス収入を受け取ることが多くみられます。そのマイルストーンは1製品あたり数億米ドル、ライセンス収入は売り上げに対して一桁台半ば（%）ともいわれています。

- 上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。
  また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 資料作成日時点の情報をもとに日興アセットマネジメントが作成したものであり、将来を約束するものではありません。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

「ゲノム関連」企業のご紹介①

※写真はイメージです

イルミナ　国名（米国）

ゲノム解析装置の最大手メーカー

【組入理由】

- DNA解析装置（次世代シーケンサー）市場における圧倒的な地位
- ゲノム解析件数の急増に伴なう業績拡大期待

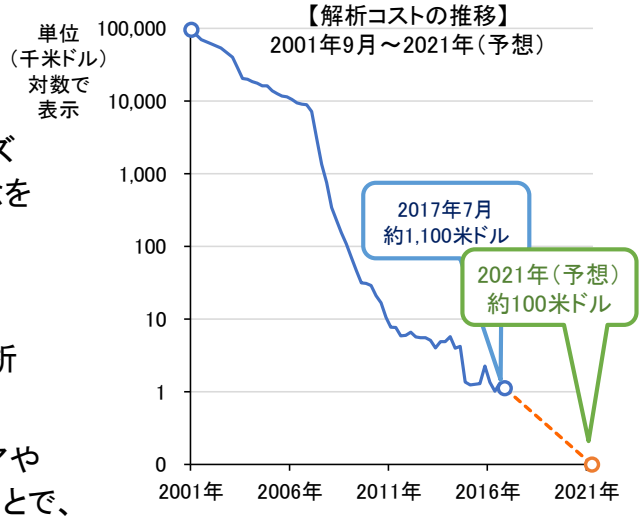
【注目のニュース】

同社が進めていたパシフィック・バイオサイエンシズ（米国）の買収に関し、英独に次いで米当局も懸念を表明しました。（2020年1月、買収を断念）

【今後の見通し】

ARKでは、2021年までにヒト1人当たりのゲノム解析コストは100米ドルまで下がると予想しています。

こうしたゲノム解析コストの低減により、ヘルスケアやゲノム診断薬分野の新たな需要が生み出されることで、同社の業績のさらなる拡大を見込んでいます。

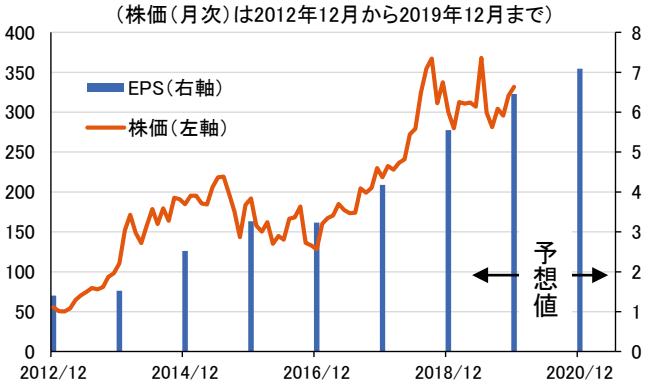


（出所）米国立ヒトゲノム研究所
※2021年は2018年9月時点のARKの予想

EPS：1株当たり純利益

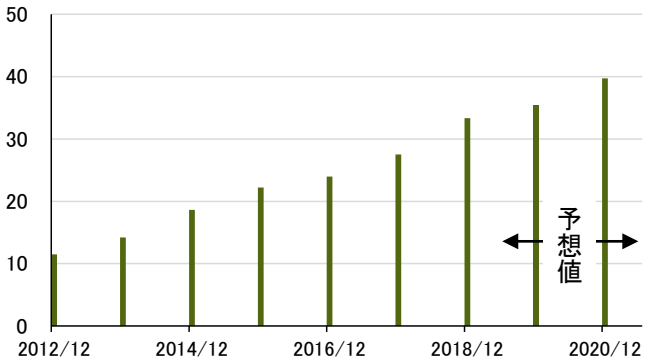
株価とEPSの推移（単位：米ドル）

（EPSは2012年～2020年）
（株価（月次）は2012年12月から2019年12月まで）



売上高の推移（単位：億米ドル）

（2012年～2020年）



※ 当ファンドの運用期間は2019年6月以降です。なお、当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。
※ EPSおよび売上高は決算期ベース、2019年12月および2020年12月は2019年12月末時点の市場予想値です。
● 上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。
また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
● 当ページは、2019年12月末時点の組入上位について、ARK社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
● 上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

nikko am 日興アセットマネジメント
当資料は、投資者の皆様に「グローバル・プロスペクティブ・ファンド＜愛称：イノベーティブ・フューチャー＞」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

「ゲノム関連」企業のご紹介②

CRISPRセラピューティクス

国名（スイス）

ゲノム編集技術“CRISPR/Cas9”の基礎的特許・ライセンスを持つ3社の一角

※写真はイメージです

【組入理由】

- 画期的なゲノム編集技術CRISPR/Cas9（クリスパー/キャスナイン）の特許を保有
- 臨床検査や遺伝子疾患分野における先駆者としての優位性

【注目のニュース】

- 2019年11月発表の、ゲノム編集治療薬CTX001の臨床試験結果は極めて良好
- Vertex PharmaceuticalsにCRISPR/Cas9のライセンスを供与（最大約4億米ドルのマイルストーン収入、および将来のライセンス収入の獲得が見込まれます。）

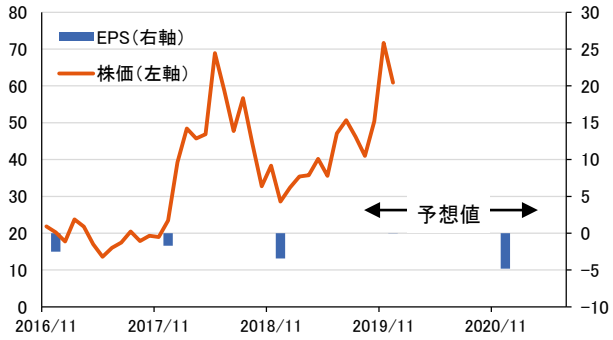
【今後の見通し】

迅速な意思決定や高い技術力に加え、血液疾患の研究分野における先駆者としての優位性などから、ARKでは、ゲノム編集技術を使った、患者の体外で行なう遺伝子治療において同社が先行し、業績が拡大すると見込んでいます。

EPS：1株当たり純利益

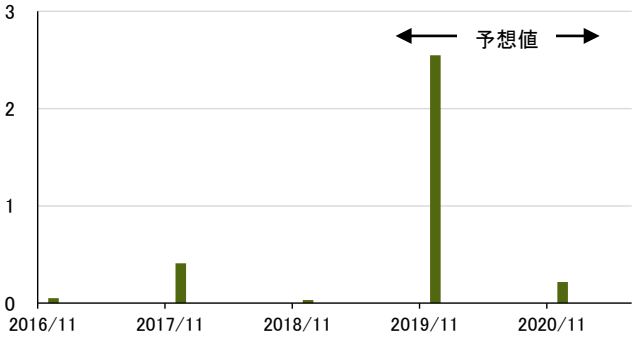
株価とEPSの推移（単位：米ドル）

（EPSは2016年～2020年）
（株価（月次）は2016年11月から2019年12月まで）



売上高の推移（単位：億米ドル）

（2016年～2020年）



※ 当ファンドの運用期間は2019年6月以降です。なお、当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。
※ EPSおよび売上高は決算期ベース、2019年12月および2020年12月は2019年12月末時点の市場予想値です。

- 上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 当ページは、2019年12月末時点の組入上位について、ARK社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

「ゲノム関連」企業のご紹介③

※写真はイメージです

インビテ　国名（米国）

遺伝子検査、分子診断サービスの大手

【組入理由】

- 質の高い遺伝子検査サービスに注目
- 同社が手がける、今後の医療の在り方を変え得る分子診断サービス*の巨大な成長ポテンシャル
  ＊現在、疾患特定のために行なわれる数多くの検査を、血液検査だけで可能とするサービス

【注目のニュース】

- 2019年11月、臨床検査プラットフォーム「インビテ・ディスカバー」を発表
  （同プラットフォームは、アップルウォッチを通じて生体認証データを入手し、病気の遺伝的要因をより深く理解するために臨床研究で用いられます。）

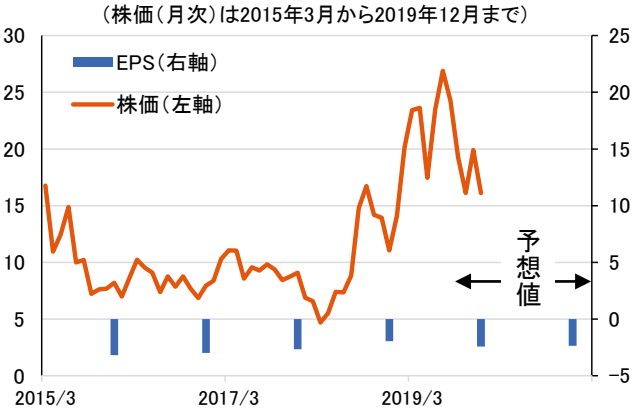
【今後の見通し】

ARKでは、同社の分子診断サービスを使った診断が標準的な診断方法となる可能性があると考えており、今後、同社の業績の更なる拡大を見込んでいます。

EPS：1株当たり純利益

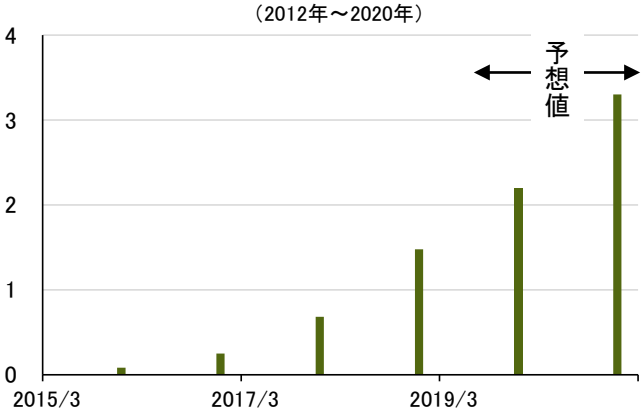
株価とEPSの推移（単位：米ドル）

（EPSは2015年～2020年）
（株価（月次）は2015年3月から2019年12月まで）



売上高の推移（単位：億米ドル）

（2012年～2020年）



※ 当ファンドの運用期間は2019年6月以降です。なお、当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。
※ EPSおよび売上高は決算期ベース、2019年12月および2020年12月は2019年12月末時点の市場予想値です。
● 上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。
また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
● 当ページは、2019年12月末時点の組入上位について、ARK社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
● 上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

nikko am 日興アセットマネジメント
当資料は、投資者の皆様に「グローバル・プロスペクティブ・ファンド＜愛称：イノベーティブ・フューチャー＞」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

今、ARKがお伝えしたいこと-②テスラ

当ファンドの主要投資対象である外国投資法人の運用に助言を行なう、
ARK社の視点をお伝えします

Catherine D. Wood
（創業者、CEO / CIO（最高投資責任者））

組入銘柄のうち、組入れ1位にある「テスラ」についてお話しします。

世界有数のEV（電気自動車）メーカー　国名（米国）

【組入理由】

- EVメーカーとしての評価に加え、将来、自動運転が実現した際に、販売した自動運転車を自動運転タクシーとして保有者とシェアするサービス（テスラネットワーク）の準備を進めていることを評価しています。
- テスラネットワークは、車体販売時にほぼすべての収益を計上する従来型の手法と異なり、販売後に継続的に収益を計上できる仕組みであり、同社は高い成長を遂げる可能性が高いと考えられます。

※写真はイメージです

【最近のニュース】

- 2019年7-9月期の決算は、赤字予想に対して、コスト削減により黒字への転換に成功。
- 2019年1月着工の「上海ギガファクトリー」で「モデル3」生産開始、2019年末には初出荷を実施、また、「欧州ギガファクトリー」の用地をベルリンに確保するなど生産体制強化を図る。
- 同社初のピックアップトラック「Cybertruck（サイバートラック）」の予約が好調。

【今後の見通し】

ARKでは、テスラ社の価値を握るのは「モデル3」の売上粗利益率であると考えています。2019年7-9月期時点では20%超でしたが、累積生産量の増加によるコスト低減を予測するライトの法則に基づいて試算すると、2020年中には同利益率は30%を上回るとみられます。

同社が、この利益を販売価格の引き下げに用いて需要を喚起させたとしても、累積生産台数の増加に伴なう原価低減効果で、売上粗利益率の増加が可能になるとARKは考えており、同社の成長に懐疑的な市場の見方とは大きく異なっています。

- 上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。
  また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 当ページは、2019年12月末時点の組入上位について、ARK社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。
- 上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。また記載した見解は将来変更となる場合があります。

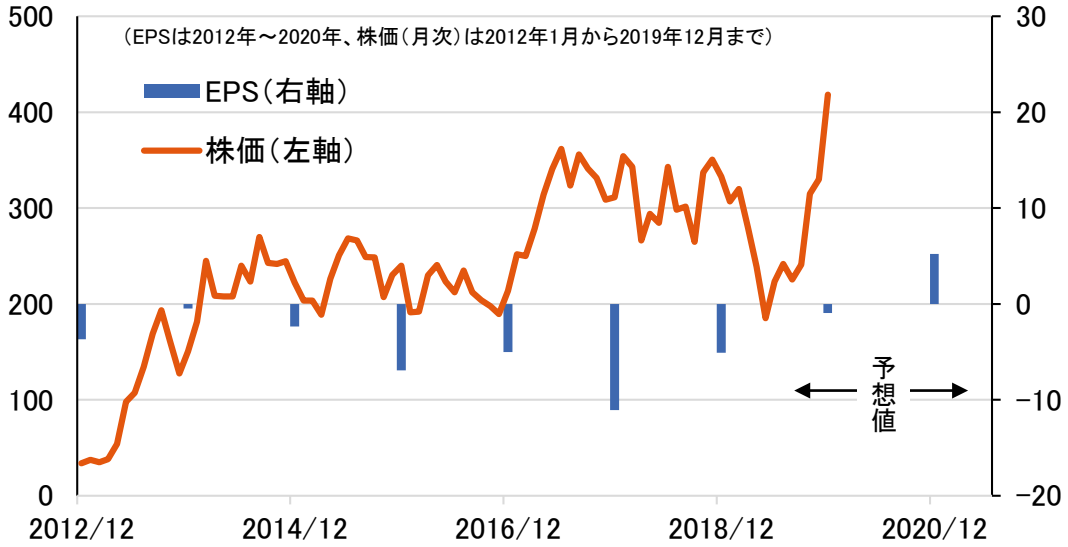
nikko am 日興アセットマネジメント

当資料は、投資者の皆様に「グローバル・プロスペクティブ・ファンド＜愛称：イノベーティブ・フューチャー＞」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

テスラの株価と業績推移

株価とEPSの推移（単位：米ドル）

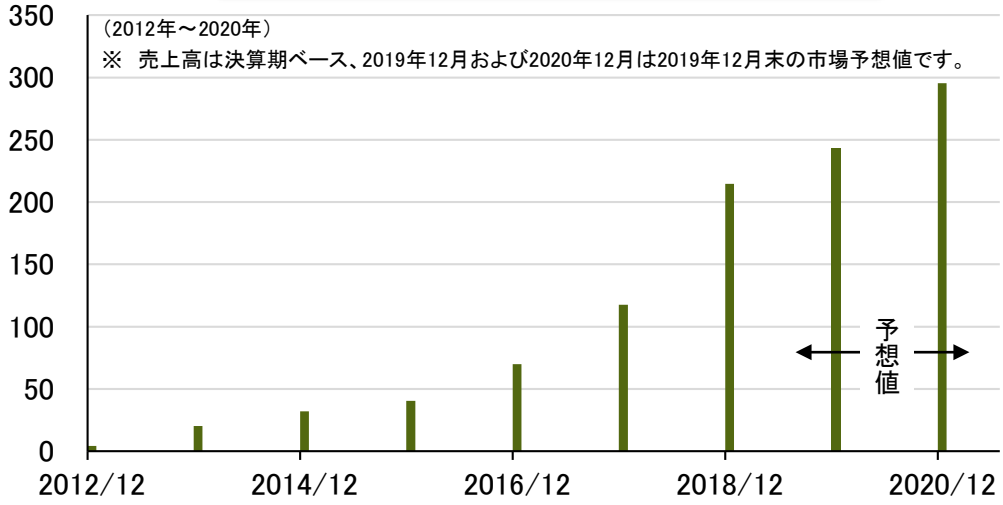
EPS：1株当たり純利益



※ 当ファンドの運用期間は2019年6月以降です。なお、当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。

※ EPSは決算期ベース、2019年12月および2020年12月は2019年12月末時点の市場予想値です。

売上高の推移（単位：億米ドル）

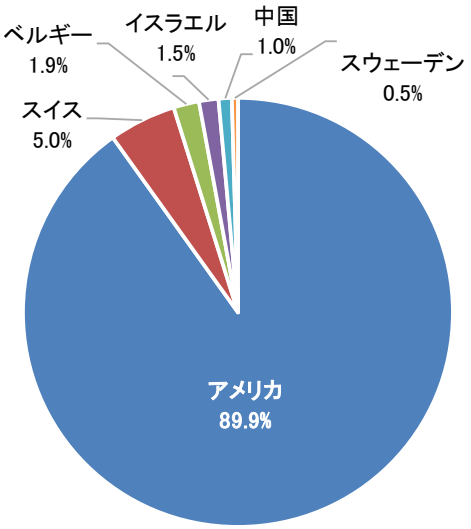


- 上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

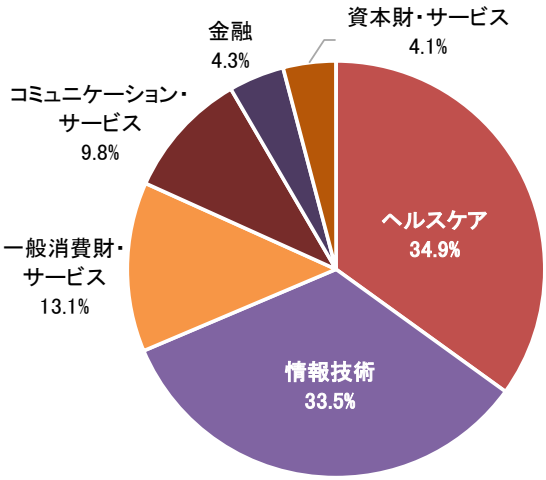
ポートフォリオの状況

2019年12月末現在

国・地域別組入比率



業種別組入比率



※ 記載項目のほかにその他などがある関係で合計が100%とならない場合があります。

組入上位10銘柄

（銘柄数42銘柄）

	銘 柄 名	通 貨	国・地域名	業 種	比率
1	Tesla Inc テスラ	米ドル	アメリカ	一般消費財・サービス	9.8%
2	Illumina, Inc. イルミナ	米ドル	アメリカ	ヘルスケア	7.1%
3	Square, Inc. Class A スクエア	米ドル	アメリカ	情報技術	6.5%
4	CRISPR Therapeutics AG CRISPRセラピューティクス	米ドル	スイス	ヘルスケア	5.0%
5	Invitae Corp. インビテ	米ドル	アメリカ	ヘルスケア	4.9%
6	Stratasys Ltd. ストラタシス	米ドル	アメリカ	情報技術	4.3%
7	2U, Inc. トゥーユー	米ドル	アメリカ	情報技術	4.0%
8	Editas Medicine, Inc. エディタス・メディシン	米ドル	アメリカ	ヘルスケア	3.9%
9	NanoString Technologies, Inc. ナノストリング・テクノロジーズ	米ドル	アメリカ	ヘルスケア	3.3%
10	Zillow Group, Inc. Class C ジロー・グループ	米ドル	アメリカ	コミュニケーション・サービス	3.0%

規模別構成比率

時価総額	比率
超大型株 （500億米ドル以上）	15.4%
大型株 （100億米ドル以上 500億米ドル未満）	33.3%
中型株 （20億米ドル以上 100億米ドル未満）	14.8%
小型株 （20億米ドル未満）	36.1%

※ 記載項目のほかにその他などがある関係で合計が100%とならない場合があります。

※ 上記は、日興AMルクセンブルグ・エス・エイより提供された「日興AM ARKディスラプティブ・イノベーション・ファンド クラスA 円建投資証券」の情報です。
※ 各種比率は当円建投資証券の純資産総額比です。
※ 上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ファンドの特色

1 主に、世界の上場株式の中から、破壊的イノベーションを起こし得るビジネスを行なう企業の株式*を実質的な投資対象とします。 ＊預託証券を含みます。

- イノベーションの普及度合いや市場での評価は時間と共に変化することから、投資対象とするイノベーションは固定せず、随時見直しを行ないます。
- 外貨建資産への投資にあたっては、原則として、為替ヘッジは行ないません。

2 個別銘柄の選定において、アーク社の調査力を活用します。

- イノベーションにフォーカスした調査に強みを持つ、米国のアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー（アーク社）からの助言をもとに、日興アセットマネジメント アメリカズ・インクが当ファンドの主な投資対象であるルクセンブルグ籍円建外国投資法人「日興AM ARKディスラプティブ・イノベーション・ファンド クラスA」の運用を行ないます。

3 年1回、決算を行ないます。

- 毎年5月20日（休業日の場合は翌営業日）を決算日とします。

※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行なわない場合もあります。

●市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

お申込みに際しての留意事項①

●リスク情報

投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】

- 株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。
- 新興国の株式は、先進国の株式に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。
- 公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。

【流動性リスク】

- 市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- 新興国の株式は、先進国の株式に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

（次ページに続く）

お申込みに際しての留意事項②

（前ページから続く）

リスク情報（続き）

【信用リスク】

- 投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト（債務不履行）や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- 公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。

【為替変動リスク】

- 外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- 一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

【カントリー・リスク】

- 投資対象国における非常事態など（金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など）を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- 一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

●その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様に「グローバル・プロスペクティブ・ファンド＜愛称：イノベーティブ・フューチャー＞」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

お申込みメモ

商品分類	追加型投信／内外／株式
購入単位	（分配金受取コース）　1万口以上1口単位、1万円以上1円単位 （分配金再投資コース）　1万円以上1円単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	2029年5月21日まで（2019年6月28日設定）
決算日	毎年5月20日（休業日の場合は翌営業日）
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日がニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日またはルクセンブルグの銀行休業日に該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して8営業日目からお支払いします。

手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

＜申込時、換金時にご負担いただく費用＞

購入時手数料	購入時手数料は購入金額に応じて、以下の手数料率を購入価額に乗じた額になります。 5,000万円未満・・・・・・・・・・・・・・・・・　3.3%（税抜3.0%） 5,000万円以上1億円未満・・・・・・・　1.65%（税抜1.5%） 1億円以上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　0.55%（税抜0.5%） ※分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

＜信託財産で間接的にご負担いただく（ファンドから支払われる）費用＞

運用管理費用 （信託報酬）	純資産総額に対し年率1.658%（税抜1.58%）程度が実質的な信託報酬となります。 信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率0.858%（税抜0.78%）、投資対象とする投資信託証券の組入れに係る信託報酬率が年率0.8%程度となります。
その他の費用・手数料	目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用（業務委託する場合の委託費用を含みます。）、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。 組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第368号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 〔ホームページ〕　www.nikkoam.com/ 〔コールセンター〕 0120-25-1404（午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。）
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	商号等：　みずほ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第94号 加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人金融先物取引業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

nikko am

Nikko Asset Management